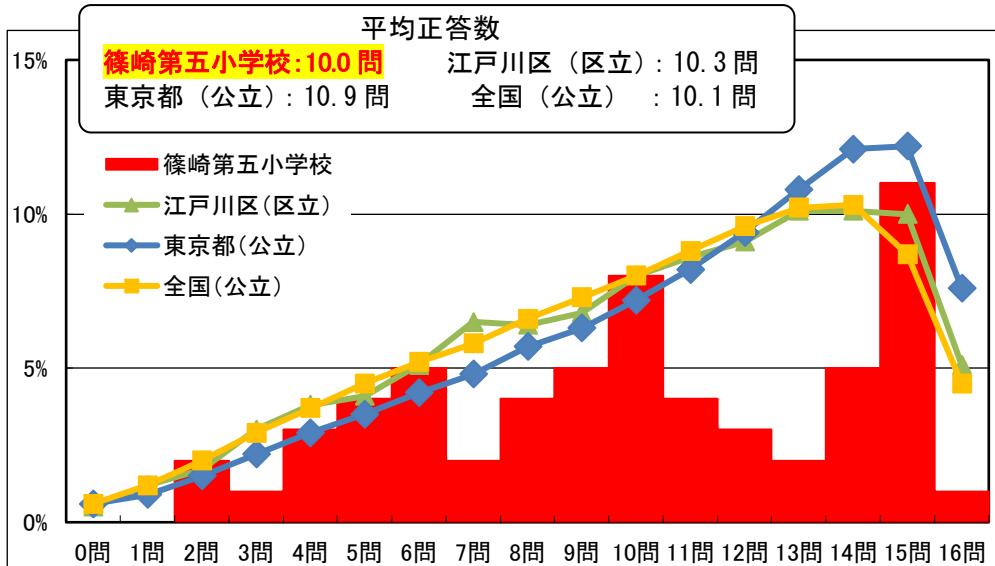


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 篠崎第五小学校

## 正答数分布

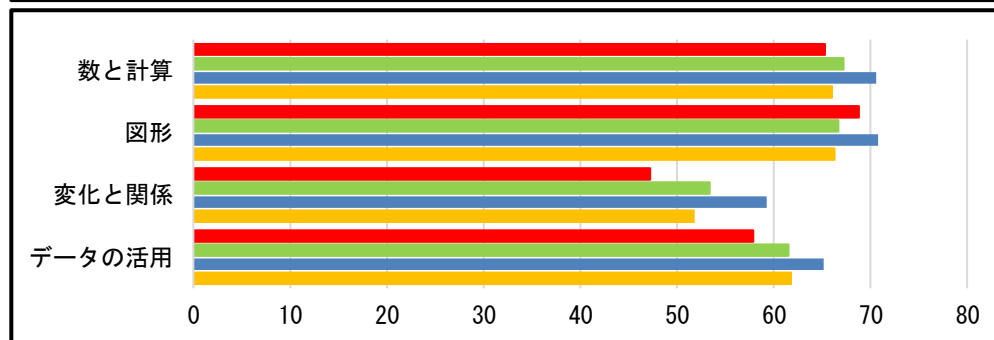
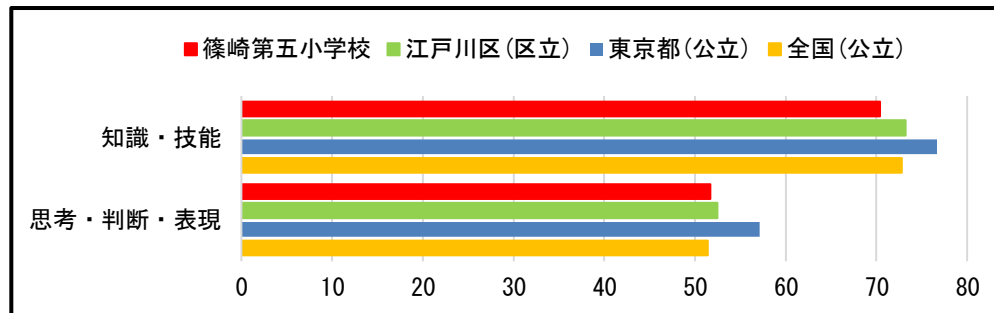


## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
篠崎第五小学校	28.3	8.4	35	28.3
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



## 【平均正答率の差】

篠崎第五小学校	62%
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	-6ポイント

## 【分析結果と授業改善に向けて】

都との差が-6ポイントであった。C・D層の引き上げが大きな課題である。誤答が多い問題を見てみると、文章を読んで立式する問題や「速さ」を含む単位量あたりの大きさの問題において理解が不十分であることがわかる。「問題文に沿って数直線などの図や表に表すことで数量の関係を捉え、式に表す」学習をどの学年でも授業で丁寧に扱っていく。また、新出の「算数の言葉」について、定義をしっかりと抑え、問題を解き進める中で、その理解を確かなものにできるようにしていく。児童の苦手意識を減らしていくために、学習タイムにデジタルドリルを用いて前年度までの学習内容を復習する機会を毎週設けるなどして、確実に基礎基本の定着を図っていく。